

## パヴァーヌ

うらさびれた動物園を、王子は散歩した

平日の朝

春の兆しを孕む陽光

「我が秘めたる思いよ」

あの太陽から放射されるもの

その多くがこの星を迂回してゆく

王子はゆるやかに舞う

幻の相手と共に舞う

象の鼻振り子よりもさらに

さらにゆったりとしたリズムで舞っている

キツネザルの丸く忙しい目は

眠りの機会を窺っている

降り注ぐ小さな励起物

細胞は、かすかなめまいに酔う

突然

王子がくしゃみをした

「おお、花粉のみであれば・・・」

(2012.3.11)